

新 聞 誌

〒444-0103 愛知県額田郡幸田町大字大草字祢宜屋敷(祢宜)63-1
人との交わりが小さい町に暮らす。号
第357号 創刊1990年7月28日
Email kokkei1949@yahoo.co.jp

新 聞 誌

人間は友情や愛情、信頼の中で幸せを感じ、しかし裏返せば不幸の原因もそこにある。「昔は人間関係とは別の世界(自然界)に逃げ場があった。養老孟司花鳥風月に身をまかせよう。——日本講演新聞 水谷もも子

冬の日新ストロブとソバで暖まる

「筒振りの後は冬の新ストロブの時期に伺います」と約束し、ヤマト郡合がっついで両尾の美穂さん、大塚の裕子さん(母娘)来訪となった。シドカーペットでみ返し、暖かいお二人。この日は新ストロブの赤い炎に包まれて、無言のうちに、主婦をやりながら忙しい二人。活動的だけあって一緒に語り合う話題には事欠かない。美穂さんは元日長崎(川棚町)へ有名なマジック(インマジック)を見に行ったり、山々根山頂の狗国歴史碑の清掃活動したり、と普通主婦では考えられない行動をこなしている。フリージャーに就学留学して1年程の程なので、体の中に色とりどりの「マジック」がたまっているのだろう。



「一オ裕子さんは3人の子のママさんでやりながら、読書会やら地域の自治会役員やら新しい事への挑戦、勉強など驚く程幅広く動き回っている。昨年からは、おいらに「朝の新聞配達」が加わった。大谷翔平の二刀流の上に行く三刀流ママと言えろ。こんな二人がゲストなのと話題は次から次に、時間が足りなくなってきた。こけいもが鳴っていった。

この日、シブヤかよは松本名物「とろろそば」で客人をおもてなしした。信州に行った時食べた、いへんに骨が入って以降時々お茶様にふるまっている。裕子さんの娘さん(ことみん)は大人の会話の中には入れなかったが、この日は、いつもと違って違う景色を見て、母娘で「新ストロブ」の中火と部屋を暖かそうに思い出の「コマ」となったことと思う。楽しく語り合える友人・知人と過ごす時間はとても貴重だ。ゆびくっつけて感謝したい。

幸田町をどう知ろう

と云う幸田段

「今の希望が叶って、デンソー幸田製作所の工場見学が行われた。あの小高い丘の上にある白くこたえの建物の中には何かあるんだ？あそこでは何か作られているんだ？と音が興味を誘っている。訪れるチャンスは無い。会社の先輩の頼みならば」と段戸会メンバーを快く迎えてくれた。ここは数ある工場の中でも高度な品質が要求される半導体や電子部品を生産している。名産屋ドーム内に一個座が落ちたからアラトと言っただけレベル。工場とは油まけの機械と作業者がいる所」と言う。遠い昔のイメージはここには一切ない。丁寧なガイドをしてくれるが、平均年齢75歳の見学者達に理解がとれないだろうか？が、噂には聞いていたが、天竺の工場だつた。と実感できたことと、幸田町民として誇りが持てた。



かつて時代の先端に居た人達が先端工場見学



ロビーにラリーカー展示



新ストロブがあると映(ば)える？

